

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第一中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・学校教育目標と校訓に混乱がある。教育目標が上位であることから、校訓を少し見直しても良い。 ・ICTの活用は学校全体を通して積極的に取り組むことができた。 ・今年度の重点目標である小中連携がコロナの影響で充実させることができなかった。	A	・様々なコンクール、発表会等に、常に入賞されることから、目標達成に努めていると感じる。 ・すべての項目に学校が生徒の育成に頑張っていることが現れている。これからもよろしくお願いします。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	・避難訓練は避難だけでなく消火体験や救助袋を活用した避難体験を組み合わせて実施したい。 ・緊急避難時に使用する生徒の防災ずきんや教員のヘルメット、盆部や救護の旗、トランシーバー等の準備が必要である。 ・大きな生徒指導(外部機関と関わるもの)は対応中であることだけでも全体で共通理解が必要である。	A	・避難訓練など実体験による学習を毎回取り組んでいる様子に安心する。 ・いじめの早期発見が再発防止や不登校防止につながると思う。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・全国調査、県調査において、国・数・英ともに、県・全国正答率と比べ下回る項目が多かった。 ・未回答が、県や全国に比べかなり多かった。 ・生徒の特性を踏まえた、誰もがわかる授業づくりを研究主題に、全教科で学力向上に取り組んだ結果、生徒一人一人の学力が高まってきていると感じている。 ・コロナ禍ということもあり、職業体験や修学旅行、学年交流を持つことができなかった。	A	・ポジティブの割合が大きいことにほっとさせられる。 ・コロナ禍で教職員の負担が多く、見えない準備が大変だろう。 ・県の調査により優秀な成績であった。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・道徳の時間が少しずつ充実してきた。 ・授業カットや入れ替えが同じクラスで何度も起きてしまうことがあった。 ・ICT機器の活用は、学校全体をとおして積極的に進んでいる。 ・生徒数、クラス数に対して特別教室が不足しているため、教科指導が苦しい場面があった。	A	・生徒回答で「わかりやすい」が98%あり、先生方の陰の努力に感謝する。 ・タブレットを活用した授業が日常的におこなわれており、先生方の努力に敬意を表する。 ・学力向上に向けて先生方が努力している。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・生徒は落ち着いて来ているように感じる。ここからどのように伸ばしていくかを検討する余地がある。 ・県学力学習状況調査によると、あいさつ、学習準備、⑪集団の場での態度が、よくできている生徒が多く、年々できている生徒が増えている。 ・整理整頓が県や市よりも低い。教室内のロッカーの使い方等、学年を超えて共通ルールの作成も検討していく。	A	・町中で出会う生徒の態度が立派であり、頼もしく思う。 ・中学生らしい中学生であると感じる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	・問題が起こった時に、保護者と連絡がつかないケースがあり、苦労している。生徒指導後の見届けを大事にする必要がある。 ・SNSの指導において、学校としてどこまで対応するか検討が必要である。 ・時代や社会に合わせて、校則についてももっと見直しても良いと思う。	A	・先生方が生徒の実態把握に努めていることへ感謝する。 ・家庭の価値観が多様化する中で、指導に苦心していることが伺える。 ・子どもを取り巻く大人の社会に偏りが感じられる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	・本校は生徒数900人を超える大規模校であるが、生徒の多くが体を動かすことが好きで、意欲的に取り組んでいる。 ・小学校との連携も図っており体育好きな生徒も多い。 ・卒業生にアスリートとして活躍する生徒がおり、生徒達の励みになっている。	A	・環境に恵まれていることもありしっかりと取り組んでいる。 ・感染症対策で制約がある中で、生徒の意欲を保てるような工夫をしている。 ・部活動で優秀な成績を残している。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・新体力テストの結果が飛躍的に伸びただけでなく、各部活動の競技においても成果を収めた。 ・毎日カップ「中学校体力づくり」コンテストにおいて優秀賞を受賞した。 ・T1、T2、T3が連携し、スモールステップで運動の楽しさを感じさせた。 ・掲示物を作成し理解を深めさせる工夫をおこなった。	A	・コロナ禍で思うように進められないこともあるが、積極性と慎重さの両面に配慮することで歯がゆいこともあると感じる。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・学期毎の体育的行事(1学期:体育祭、2学期:持久走・駅伝大会、3学期:球技大会)の実施や、「朝霞市民まつり鳴子踊り」への参加などを行うことで、将来にわたる豊かなスポーツライフの実現と体力の向上を図っている。 ・コロナ不安のため、軽度の体調不良でも休む生徒(休ませる家庭)が増えた。	A	・地域においても恒例行事が中止となっており、難しい局面であると理解している。 ・コロナ禍で「開かれた学校づくり」は大変難しいと感じる。 ・(今年は参加できなかったが)彩夏祭で鳴子踊りに取り組んでいる。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・保護者に連絡や来校を依頼する際に、仕事だからと断られることがある。教員の勤務時間と働き方改革推進ため、改善が必要である。 ・コロナ禍で保護者と直接会う機会が減ったので、しょうがないと思います。 ・協力的で無い家庭の対処の仕方に苦慮している。	A	・社会全体が不要不急なことが難しい中で、生徒も自分の育った地域で清掃・あいさつに協力している。 ・まずは家庭や社会で過ごしている生徒の姿を学校と共有できたらいいですね。 ・保護者との連絡については、働き方改革によりお互いの時間帯が相反する為、永遠の課題ですか

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満